

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100495		
法人名	有限会社 グッドウィル		
事業所名	グループホーム はるとり		
所在地	北海道釧路市春採2丁目27番1号 (電話) 0154-41-0206		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 10.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釧路脳神経外科・さい内科クリニック・望洋歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熱意のあるホーム長を中心に職員は日々、利用者本位の生活が実現できるように支援しています。介護予防を兼ねた体操や歌、ゲームなど楽しみながらできるように工夫されています。毎月の通信の題字は利用者さんが交代で書かれご家族に喜ばれています。ホーム主催の行事や研修会、避難訓練には、利用者と一緒に近隣の家々を回り行事の案内のチラシを配って参加を呼びかけています。また、市の保健師の協力で地域の方にも役立つ口腔ケアや食事の栄養指導の講習会、ホーム長による手作りお菓子教室を開催し地域に向けてホームを理解して貰う取り組みを行っています。新たにエレベーターを設置しユニット間の交流や安全面の配慮もなされています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、地域に向けてのホームを理解して貰う取り組みでしたが、市の出前講座を運営推進会議の際に開催し、地域の方々や家族を招待して口腔ケアの研修会や食事会を兼ねての栄養指導など地域や家族にも役に立つ研修会を開催し地域に向けてホームを理解して貰う取り組みを行っています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は自己評価を実施する意義を良く理解し、会議でも検討され、研修を行うほか更に具体的な取り組みを行っています。また、外部評価については、評価結果を真摯に受けとめて具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、2か月に一度実施されています。主な主題については外部評価の結果報告 ホームの近況報告 ホームでの食事会体験と市の保健師による栄養指導 市の保健師による口腔ケアの研修会
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月の「はるとり つうしん」で利用者の日常の生活ぶりや行事の時の写真を掲載し、健康状態、スタッフの紹介、金銭の出納について報告されており、状態の変化については、その都度電話連絡で報告しています。また、来訪時には気軽に話せる雰囲気作りに取り組んでおり、家族会や行事での来訪の際にも、意見や要望を言っていただく機会を設けています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会主催の花植えや日帰り温泉等の行事や活動に参加し、ホーム主催の行事や研修会、避難訓練には、利用者と一緒に近隣の家々を回り行事の案内のチラシを配り、参加を呼びかけています。また、市の保健師の協力で地域の方にも役立つ口腔ケアや食事の栄養指導の講習会などの出前講座を主催してホームを理解して貰う取り組みを行っています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの事業所の理念に「地域の中で」を加え、地域に向けた取り組みを積極的に行っており、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のケアカンファレンスの際に、職員全員が理念に沿ったケアがなされているかを振り返る機会を作り、反省点は今後活かせるよう取り組み、理念を職員全員で話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会主催の花植えや日帰り温泉等の行事や活動に参加しており、ホーム主催の夏祭りや研修会、防災訓練等の行事には、利用者と一緒に家々を回り行事案内のチラシを配って参加を呼びかけている。		町内会や町内の婦人部の協力のもと、避難訓練が実施されており、市の保健師の協力を頂き、地域の方にも役立つ口腔ケアや食事の栄養指導の講習会等の出前講座や手作りお菓子教室を開催し、ホームを理解して貰う取り組みを行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価を実施する意義を良く理解し、会議でも検討され、研修を行うほか更に具体的な取り組みをしている。また、外部評価については、評価結果を真摯に受けとめて具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、家族会会長・民生委員・包括支援センター、ホーム長・事務長・介護支援専門員・職員が参加し、2か月に一回開催されており、会議を通して地域との連携が図られている。		運営推進会議を通じて町内会や地域の婦人部と連携して、講習会や避難訓練が実施されており、運営推進会議の議事録は利用者と一緒に市の高齢者福祉課に提出している。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に2回の地域包括ケア会議に近隣ホームの代表として参加し意見交換をしている。市の介護高齢者福祉課とは気軽に相談できる関係が築かれ、時には利用者と同行して運営推進会議の議事録を市に提出している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム通信の「はるとり つうしん」で利用者の日常の生活ぶりや行事の時の写真を掲載して伝えており、健康状態、スタッフの紹介、金銭の出納についても報告されている。また、状態変化についてはその都度電話連絡で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム苦情相談窓口や外部苦情申し立て機関が明記されている。また、来訪時には気軽に話せる雰囲気作りに取り組んでおり、家族会や行事での来訪の際には、意見などを言っていただく機会を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職はなるべく少なくし、異動などのために担当者が代わる場合には次に担当になる職員を利用者と相性の良い人とし、異動前からより多く係わりを持つなどの配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時には緊急時の手当など必要な研修は基より、外部での研修になるべく多くの職員が参加できるようにしており、参加できなかった職員には会議時に伝達講習会が行われている。また、ホーム内では、外部から保健師を招いて研修会を開催するなど職員が働きながら学べる機会を確保している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での、交換研修・訪問研修などへの参加を通じて同業者と交流する機会を持っている。また、近隣のグループホームの職員が集まり勉強会や意見交換をする場を設けサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者・家族の見学などで不安を解消できるよう取り組んでいる。見学時には一緒におやつを摂っていただいたりカラオケをするなどホームの雰囲気に馴染めるようご家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日、職員が新聞の読み聞かせを行い、記事について喜怒哀楽を出しながら会話をしている。また、お料理のこつ、畑のおこし方、芋の植え方などを教えていただいたり、一緒にお漬物物を漬けたり、日々の食事の用意を一緒に行うなどしながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	過去の生活歴やご家族から協力をいただき情報を収集して、一人ひとりの希望、意向の把握に努めている。また、日常の会話の中で食べたいものやその日に着たいもの、買い物や美容室に出かけたい希望などそれぞれの方の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	センター方式を活用して利用者との日常生活の会話や係わりの中で本人、家族からの情報を収集して介護計画に活かしている。また、課題は介護支援専門員・担当者・ホーム長が元となる介護計画を作り、他の職員の意見を聞き、家族の同意をいただき、ご家族の意向で更に見直し、実現可能な介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書に記載している個別の期間を目安に計画的に見直しが行われている。また、利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても、随時現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	ご家族が連れて行けない場合や通院の支援の他、友人宅にお連れするなど柔軟な支援に努めている。また、ご家族が宿泊を希望した場合にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ほとんどの方が入居前からのかかりつけ医にかかっている。看護師が職員として配置され、24時間の相談体制がとられている。往診も受けられるようになっており、相談をしながら健康管理などを行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた指針については家族会で話し合っており、ホームで出来る対応の限界を本人・ご家族と早い段階から話し合い、できる限り希望に添えるように支援しており、医療機関とも相談し指示を受け職員全員で方針を共有しようとしている。		看とりの指針を作成して、家族から同意書を貰っているが、今後、緊急に医療機関で同意が必要な治療が発生する場合を想定して、すぐに連絡が取れない家族から事前に細部に渡った内容の確認書を作成し、同意を頂くような取り組みも検討している。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重して声かけなどを行っている。記録については利用者や訪問者などからは見えないところで行われ、記録等の管理も決められた場所で行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調、希望に合わせ、買い物や散歩、外食やドライブに行くなどの外出の支援、食事の準備やレクリエーションの参加など本人の希望やペースに沿って柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の希望や力量に応じて役割を持ち、一緒に盛りつけ、配膳、水を配るなどの食事の準備をしている。食事中も楽しく会話をして利用者同士良い関係を築いており、食後は片付けや洗い物をしたりと和やかに過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週2回の入浴を基本として希望があれば、いつでも入浴できるように柔軟に対応している。また、ゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように入浴の長さは一人ひとりの希望や体調に合わせて配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりがホームでの役割ごとが決まっており、畑やビニールハウスの様子を見に行ったり、食事の準備では調理・盛りつけ・水の係などその仕事になると声を掛け合いながら行っている。また、普段の余暇活動なども楽しみごとになるように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩が行われ、利用者の希望があれば、喫茶店や近郊の観光地へドライブに行っている。また、一緒に近隣を回り、行事の案内のチラシを配ったり、市役所へ運営推進会議の議事録の提出しに行くなど、戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理責任者を配置され、避難訓練は夜間を想定したものを含めて年2回実施されている。町内会との合同防災訓練を行い協力関係が築かれている。		防災・避難訓練は運営推進会議の議題として取り上げて地域の方々と話し合わせ、避難訓練を実施されている。また、ホーム内の緊急連絡網はもとより、地域の緊急連絡網の作成も検討されている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量の記載があり、一日の水分量が確保されるように取り組んでいる。一人ひとりのその日の体調に合わせた食事を提供し、きざみ食やおかゆ、量など柔軟に支援している。また、献立は市の保健師からアドバイスを貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には気になる音や光は感じられず、窓には鉢花が置かれ安心感が感じられ、近所の方から寄贈されたおひな様が飾られ季節感を採り入れて居心地良く過ごせるような工夫がされている。また、新たにエレベーターが設置され、ユニット間の相互の行き帰りも以前より多くなりホームの一体感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた家具やテレビなどが持ち込まれ安心して過ごせる部屋となっている。それぞれの家族の写真が飾られ、一人ひとりが落ちついて安心して居心地よく過ごせる空間となっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。